

ワークショップ 各グループで出た主な意見まとめ

①地域の課題の洗い出し

各グループのメンバーが、それぞれの地域における子供や保護者（保護者世代）を取り巻く課題を挙げていただきました。

【地域の課題】

- ・ 少子高齢化。
- ・ 人口流出。
- ・ 公民館での若者（中学生、高校生、大学生、青年）世代の参画。
- ・ 転入による、周囲とのつながりの希薄化。

【子供や保護者を取り巻く課題】

- ・ 体験活動の機会の減少。
- ・ 親子での事業（イベント）参加が少ない。
- ・ 子供同士、保護者同士、若年層のつながりの希薄化。保護者世代の、祖父母世代との関わりの減少。
- ・ 共働き家庭、ひとり親家庭の増加による子育て世帯の多忙化。
- ・ コロナ禍における居場所づくり。
- ・ 子育てに関する不安や悩みを抱えた保護者の増加。

【家庭教育支援、子育て支援上の課題】

- ・ 支援が必要な家庭に対して、必要な支援が届いていない。
- ・ 地域の役員のなり手不足。
- ・ 家庭教育支援の担い手不足。人材の発掘が不十分（同じ人ばかりが活動している）。
- ・ 活動者、地域人材の高齢化。
- ・ 公民館に地域の家庭教育支援の拠点として機能してほしい。
- ・ 家庭教育学級を開催しても参加者が少ない。参加するのは家庭教育への意識が高い保護者のみ。
- ・ 家庭教育支援に関する講座（コーディネーター養成講座）を受けた方を紹介する機会。
- ・ 活動を周知したいが、学校から情報を得ることができない。コロナ禍なのもあり、学校に入りづらい。
- ・ 教育委員会内の連携、関係部局との連携が不足している。
- ・ 心配な家庭の情報をすべて把握できない。
- ・ 学校と地域の支援者の立場の違いから、連携しづらい。

②どこどこ（誰）が連携できるか、何を活用できるか

課題解決に向けて連携できる機関や人材を挙げていただきました。

【人材】

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| ・ おじいちゃん・おばあちゃん（高齢者サークル） | ・ 地域学校協働活動推進員 |
| ・ ジュニアリーダー（高校生） | ・ 保健師 |
| ・ 防災士 | ・ スポーツクラブ、部活動の指導者 |
| ・ 民生委員 | ・ 社会教育士（社会教育主事） |
| ・ スクールカウンセラー | ・ 社会福祉士、スクールソーシャルワーカー |

【機関等】

（公的機関）

- | | |
|-----------|-------|
| ・ 社会福祉協議会 | ・ 図書館 |
| ・ 児童養護施設 | ・ 保育所 |
| ・ 公民館 | |

（学校関係）

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ・ 学校 | ・ 放課後子供教室、放課後児童クラブ |
| ・ 学校運営協議会（コミュニティ・スクール） | ・ PTA |
| ・ 地域学校協働本部、地域学校協働活動 | |

（民間団体等）

- | | |
|---------|---------------------------|
| ・ おやじの会 | ・ スーパーやドラッグストア（チラシ等による周知） |
| ・ 自治会 | ・ 歯科、小児科、産婦人科（チラシ等による周知） |
| ・ NPO法人 | ・ 商工会、地元企業（飲食関連） |

※この資料は、令和4年2月4日（金）に開催した令和3年度「全国家庭教育支援研究協議会」・「全国公民館研究フォーラム」合同大会のワークショップにおいて、各グループが協議しワークシートに記載した意見を、文部科学省で集約したものです。

③地域の資源と連携した具体的な方策

①,②を踏まえ、具体的な検討策を検討していただきました。

【保護者や子供の交流の場、居場所の提供】

- ・ 高齢者からのレクリエーションの機会の提供。
- ・ ジュニアリーダーを講師にeスポーツ講座を実施。ジュニアリーダーが次の世代の担い手に育つ。
- ・ 夏休みに公民館で「宿題応援教室」を実施。
- ・ 子ども食堂等、公民館において子供の居場所をつくる。地域の人に食材を提供してもらったり、調理の協力をしてもらったりする。
- ・ 学校図書館を開放し、低学年の保護者同士のつながりの増加を図る。
- ・ 企業から提供された飲食物の食べたり飲んだりしながら、子育てについて語り合える空間をつくる。

【保護者の学習機会の提供】

- ・ 学校を会場として、生徒を巻き込んだ講座を実施。
- ・ 公民館において、親子で避難所体験を実施。親子で参加できる防災講座。
- ・ 必ず保護者が通過するポイントである就学時健診や保護者会等を活用し、保護者への学習機会の提供。
- ・ 企業や店舗の一角に地域の支援情報を得られるコーナーや、居場所を設置。企業のイメージアップにも寄与する。

【保護者の相談の機会の提供】

- ・ 学校の中等で気軽に立ち寄れる環境づくり（西会津町の「こころのオアシス」等）。
- ・ 助産師や保健師等と連携し、新生児訪問時に家庭教育支援員が同行し、保護者とつながる。
- ・ 福祉施設を活用したサロンの定期的な開催。
- ・ アプリやWeb会議システムを活用する。

【家庭教育支援体制の構築】

- ・ 支援員には、講座や研修を通じて、カウンセリングスキルを身に付けてもらう。
- ・ 家庭教育支援コーディネーターと家庭教育支援団体や教員等が出会える機会を設ける。
- ・ 保健師に家庭教育支援のチラシを配布してもらう。
- ・ 家庭教育支援チームの活動に、保健師や保健、福祉部局の職員にも参加してもらう。
- ・ 保健福祉部局や関係部局との定期的な会合を実施。
- ・ 学校長の理解促進。
- ・ オンラインやSNSを活用した周知。
- ・ 地域学校協働本部の設や地域コーディネーターの配置により、学校と地域の団体が連携できるようにする。

【公民館や地域の振興】

- ・ 中学生に「まちづくり委員会」に委員として参加してもらい、地域の大人との関わりを持ってもらう。
- ・ 前世代参加のワークショップによる防災マップの作成。
- ・ 公民館で高校生が小学生に勉強を教える学習会を開催。
- ・ 避難訓練等の事業を、学校と地域で協働して行う。
- ・ 公民館の職員を学校運営協議会の委員とする。
- ・ 地域学校協働活動において、子供の見守りや声掛けを行う。
- ・ 地域の様々なスキルを持つ方の人材バンクをつくる。
- ・ 学校の消毒作業を、保護者や地域の人と一緒にいたり、児童生徒の芸術作品の審査会をPTAと地域の人と一緒に実施したり、保護者と地域が自然につながるイベント等を企画する。